慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

	ory of Academic resouces					
Title	臨床系薬学教育の洗練化に向けた実務実習指導法のあり方に関する研究					
Sub Title	Research on the practical training instruction method for sophistication of clinical pharmacy					
	education					
Author	中村, 智徳(Nakamura, Tomonori)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2018					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)					
JaLC DOI						
Abstract	 1.薬学実務実習が実習生の薬学専門科目(C1~C18)の知識定着及び新規構築に与える影響 薬学実務実習が、科学的根拠に基づく問題解決能力の基盤である薬学専門科目(C1~C18)の習得に 対する影響について検討した。 2016年度本学部5年次生149名を対象に実習前・後((期及びII期後)にC1~C18の「得意度」につい てアンケート調査し、7件法リッカート尺度を用い、値の変化量に対する影響因子、病院/薬局実習順 序別での解析及び実習施設の人的実習環境に関する質問項目との相関分析を行った。 学生の専門知識の修得は実習期間を通して構築・獲得され、専門知識を得る難度や自己効力に施設 間差は無かった。また学生毎に専門知識修得の過程に影響を及ぼす人の環境因子や強度が異なる ことも明らかとなり、学生個々の価値体系を考慮した教育と専門知識修得に至る考え方、 感じ方などについて自己認知させることが、専門知識の定着や新たな知識の構築に影響を与えてい る可能性が明らかとなった。(第2回日本薬学教育学会優秀発表貫受賞) 2.実務実習での服薬指導における学生のコミュニケーションスキル向上の自覚とその要因分析 学生の薬学実務実習におけるコミュニケーションに対する不安について、 服薬指導回数と名スキルとの関係性とその定着要因について検討した。 2017年度本学部5年よ145名を対象に実習前・後にアンケート調査し、 コミュニケーションスキルと服薬指導回数との相関分析を行った。 実習開始前と比べ、1期後に基本及び対入スキルいずれも向上したと学生は自覚していたが、 服薬指導回数の増加と不安軽減との間に相関が認められ、対人スキルの向上を自覚さも相関傾向が認 められた。薬局実習群では服薬指導回数の増加が対入スキルの向上を自覚させ、 共感の姿勢を学ぶ機会の増加が不安軽減をもたらすと考えられる。一方、 病院では知識をつけることで不安が軽減される可能性が示された。 The influence on pharmacy specialized Subjects (C1 to C18). The influence on pharmacy specialized Subjects (C1 to C18). The influence on pharmacy specialized Subjects (C1 to C18). The influence on pharmacy specialized Subjects (C1 to C18). The influence on pharmacy specialized Subjects (C1 to C18). The influence on pharmacy specialized Subjects (C1 to C18). The influence on pharmacy specialized Subjects (C1 to C18). The influence on pharmacy specialized Subjects (C1 to C18). The influence on pharmacy specialized Subjects (C1 to C18). Advatife appertive was constructed and acquired throughout the practical training period, there was no difference between institutions in difficutly and self-efficacy to gain expertise. It is also clear that human environmental factors and intensities influencing the process of acquisition of the student's expertise was constructed and acquired throughout the practical training period, there was no difference between the number					
	may be alleviated by adding knowledge.					
Notes						
Genre	Research Paper					
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170185					
UIL	prices.//rodia.iib.rei0.ac.jp///0011ps/110001es//0011ps/uetall.prip?rodia_10=2017000001-20170105					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	薬学部	職名	教授	補助姻	200	(A) 千円		
	氏名	中村 智徳	氏名(英語)	TOMONORI NAKAMURA	→ 補助額	300	(A) +D		
臨床系薬学教育の洗練化に向けた実務実習指導法のあり方に関する研究									
Research on the practical training instruction method for sophistication of clinical pharmacy education									
1.薬学実務実習が実習生の薬学専門科目(C1~C18)の知識定着及び新規構築に与える影響 薬学実務実習が、科学的根拠に基づく問題解決能力の基盤である薬学専門科目(C1~C18)の習得に対する影響について検討し									
た。 2016 年度本学部 5 年次生 149 名を対象に実習前・後(I期及びII期後)に C1~C18の「得意度」についてアンケート調査し、7件法 リッカート尺度を用い、値の変化量に対する影響因子、病院/薬局実習順序別での解析及び実習施設の人的実習環境に関する質問項 目との相関分析を行った。									
学生の専門知識の修得は実習期間を通して構築・獲得され、専門知識を得る難度や自己効力に施設間差は無かった。また学生毎に 専門知識修得の過程に影響を及ぼす人的環境因子や強度が異なることも明らかとなり、学生個々の価値体系を考慮した教育と専門 知識修得に至る考え方、感じ方などについて自己認知させることが、専門知識の定着や新たな知識の構築に影響を与えている可能性 が明らかとなった。(第2回日本薬学教育学会優秀発表賞受賞)									
2. 実務実習での服薬指導における学生のコミュニケーションスキル向上の自覚とその要因分析 学生の薬学実務実習におけるコミュニケーションに対する不安について、服薬指導回数と各スキルとの関係性とその定着要因につい て検討した。									
2017 年度本学部 5 年生 145 名を対象に実習前・後にアンケート調査し、コミュニケーションスキルと服薬指導回数との相関分析を行った。									
実習開始前と比べ、I期後に基本及び対人スキルいずれも向上したと学生は自覚していたが、服薬指導回数の増加と不安軽減との間に相関が認められ、対人スキル向上の自覚にも相関傾向が認められた。薬局実習群では服薬指導回数の増加が対人スキルの向上を自覚させ、共感の姿勢を学ぶ機会の増加が不安軽減をもたらすと考えられる。一方、病院では知識をつけることで不安が軽減される可能性が示された。									
		2. 研究	成果実績の概	要(英訳)					
1. Effects of Pharmacy Practice Training on Knowledge Entity Retention and New Construction of Trainee Pharmaceutical Specialized Subjects (C1 to C18).									
The influence on pharmacy specialized subjects (C1 to C18) which is the basis of problem solving skills based on scientific grounds was examined on pharmacy practical training.									
Acquisition of the student's expertise was constructed and acquired throughout the practical training period, there was no difference between institutions in difficulty and self-efficacy to gain expertise. It is also clear that human environmental factors and intensities influencing the process of acquisition of expert knowledge are different for each student.									
 Awareness and Improvement of Students' Communication Skills in Medication Instruction in Practical Training. About the anxiety about communication in student 's practical practice of pharmacology, the relation between the number of 									
medication instruction times and each skill and its establishment factor were examined.									
In the pharmacy practice group, an increase in the number of medication instruction times aware the improvement of interpersonal skills, and an opportunity to learn the sympathy attitude is thought to bring about anxiety reduction. On the other hand, in hospitals, it									
was shown that anxiety may be alleviated by adding knowledge. 3.本研究課題に関する発表									
発表者	皆氏名	3. 平1 発表課題名			学術誌系				
(著者・	講演者)	(著書名・演題)		蒈書発行所・講演学会)	(著書発行年月				
菊山史博、鈴 彰紀、地引 約 中村智徳		薬学実務実習が実習生の 識(C1~C18)の知識定着及 規構築に与える影響]日本薬学教育学会(名古	2017 年 9 月				
	森 達、鈴木小 大塚尚子、地 徳	事前学習および薬局実習に OTC 実習の問題点と満足り のための提案		育 2017 第 1 巻;51-58	2018 年 1 月				
	木小夜 、菊山 太 、地引綾 、中	実務実習での服薬指導におり 生のコミュニケーションスキノ の自覚とその要因分析		学会 138 年会(金沢)	2018 年 3 月				
	田紘樹、鈴木 5、地引 綾、小 和子 、山浦克		方を探	学会 138 年会(金沢)	2018 年 3 月				